

私は、1970年代後半、日本で勤務していた本田技術研究所を退社し、アメリカに自動車と二輪車の部品製造と開発、デザインを行う会社を起業しました。数年後には、従業員数が数百人を超えるまでに成長、その後、自動車のリサーチの分野にも進出しました。現在では、アメリカだけでなく、ヨーロッパや中国でも事業を展開しています。

一方、十数年前より、留学生の支援をボランティアでさせて頂くことになりました。その中で分かったことは、学業について行けない、先生に言いたいことが言えない、生活上のトラブルに巻き込まれた、トラブルを抱えて泣き寝入り…、このような留学生が多いことに驚かされたのです。

こうした留学生の実情を見るにつけ、誰かが現地で本格的なサポートをしない限り、折角の留学が台無しになる可能性があることが分かりました。サポートを完全に行うためには、ボランティアだけでは限界があることを痛感し、1999年、株式会社IGEをアメリカに設立しました。

若い留学生の人達は、留学を成功させ、世界中に友を作り、より良い未来のために活躍したいという夢があります。そのために、微力ながらIGEが貢献できるとしたら、これほどの喜びはありません。

IGEのポリシーは、本社をアメリカに置くことから出発しており、

- 次代を担う若者が国際的な舞台で活躍できるよう、現地にて全力で支援します
- 現地で徹底したサポートを行い、一人残らず留学を成功に導きます
- 現地に本社がある強みを生かし、他社ではマネが出来ない、価値的な留学を実現します
- 日本の社会問題である不登校生を、アメリカ留学によって蘇生させます

IGE（株）代表取締役・社長 平田幸司

プロフィール

日本大学理工学部卒業後、ホンダ技術研究所勤務。設計、企画を担当。1979年渡米し、米国で自動車部品製造会社を起業。その後、米国、EU、中国でマーケティング・リサーチを展開。在米の間、数多くの日本人留学生の支援をボランティアで行う。この体験から現地での留学生サポートの必要性を痛感し、IGEを設立。



1987年、高校卒業後の初夏のあの日、ロサンゼルス空港に降り立った時に見た、抜けるような青空、そして期待と不安が織りまざった胸の高鳴りは、今でも鮮明な記憶として残っています。UCLA卒業後、アメリカの企業で数年働いた後、日本に帰国。国際的に活躍している企業で、留学で培った英語力や経験を生かして、充実した仕事をさせて頂きました。

当時はIGEのような「留学は渡米してからが本番」という考えのもと、現地サポートを徹底的に行っている会社はありませんでした。ただ私には当時、LAに永住している叔母家族の支えがありました。今振り返ってみても、あの時現地に誰も頼る人がいなく、アドバイスを受けることができない環境であったならば、今の私の人生はなかったのではないかと感じています。

多くの皆さんはそのようなコネクションが無い方がほとんどだと思います。留学の目的達成のために一步一步進んでいくには、やはり現地の事情に精通した人間が親身になってサポートするのが、成功の一番の近道なのです。IGEの強みは正にそこにあります。

私は、これからの時代は、一人ひとりの「勇気」が問われる時代だと思っています。私の言う「勇気」とは、確実に新しい一歩を踏み出すという勇気です。同じ所に留まり、同じような毎日を送るというのもそれぞれの選択なので悪いことだとは思いません。ただ、やはりそれでは「進歩」は生まれません。その「一歩」はほんの些細なことでも良いのです。例えば、いつもは素通りしていた道端のゴミを気づいたら拾う、というような事でも良いと思います。

留学をただ決心しただけでは毎日進んでいるとは言えません。今日、この瞬間に新しい単語をひとつ確実に覚える。そういったことが一步一步着実に進むということだと思います。この「勇気をもって一歩前へ踏み出す」というのは皆さん自身が決心して行うことです。我々IGEはそんな「勇気」を持った皆さんを全力でサポートいたします。そして、「勇気ある決断と行動」をする方々をサポートする仕事に今から就けるといのは、私自身にとってこの上ない喜びを感じると共に、皆さんとの素晴らしいご縁に感謝の気持ちで一杯です。

IGE ジャパン社長 浅黄浩

プロフィール

UCLA デザイン学部を1993年に卒業。卒業後アメリカで就職の後、2000年に帰国。米国通販会社のアートディレクター、ユニクロのマーケティング、ギルト・グループ・ジャパン創業メンバーとしてクリエイティブディレクターを歴任。ビジネスを通して日本をもっと活性化させたいとの強い思いから、2014年IGEに共同パートナーとして参画。

